

玉込不申、おとし申迄に而、殺生仕間敷旨被仰渡候に付、鐵炮持主代替之節は、右之趣御縮方御請爲仕上置申候。右下梨村宅左衛門紙面を以寫置之。

一一二 能州新開檢地役人之事

能州居屋敷渡檢地、且又奧・口兩郡新開之檢地、所口小代官罷出相極候。

但、右之趣享保十六年詮議有之候。大塚彌五太夫元祿二年檢地奉行被仰付候節、前々相勤候同役に相尋候所、前々より右之通之旨に候。三階村源右衛門有合候に付致詮議候所、是又右之格之由申候。

一一三 秋縮等之儀に付改作

奉行觸

享保十年之留

一、今般永々照候得共、土用前近年無之程降續、土用に入日照に成候故、作方至極好候氣色に而、稻茂り、田之内見ね不申程に罷成申儀に候。左候へば、早損之儀先は有之間

敷与相考候。尤山方清水懸りは、少々早損も可有之候へ共、此儀は百歩一にも行届不申早損地、一村之内に茂水旱不罷成所は、例々之通三双倍も取出可有之候へば、早損分も引候而茂、損毛は有之間敷与相考候事。

一、改作如御定、當秋土用に入候日を限り、御郡々秋縮不殘差上候様に相心得可申候。一向致延引候儀は不罷成候由。其方中より急度十村共ね可申談事。

一、前々より步入之儀左之通。

草高百石之内			
五石	八月份	七石	九月份
四十石	十月份	三十石	十一月份
十八石	十二月份		

如此斗申格に候所、近年は猥に罷成、十月・十一月米高斗申肝要之時にも致斗不足、及月迫申迄延引仕百姓共多在之様に相聞候。步入吟味之儀、十村役第一之所、舊格をも取失、右吟味も疎略に仕故と相見え候。初秋より稻刈入皆濟仕迄は、收納方之儀毛頭無油斷せこを入申儀、改作之御法專用之事に候間、年若成者并新川郡新十村共坏能々致合

點、御法疎略に不罷成様、全相心得情入可申旨、其方中より可申談候。且又今月よりは、右之步入米員數を以、朔日より十五日迄之斗米、組々一村限同廿日迄之内可致注進候。

十六日より晦日迄之斗米之分は、翌月五日迄之内致注進、畢竟極月十日限皆濟爲致候様可申談事。

一、前々より之御貸米取立之儀、今年十村共心得可有之事に候。去年御貸米返上之儀、御上より御用捨之事に候間、今年之儀別而其心得可仕事に候。御郡之米高員數之儀は、大概享保七年石川郡返上米格之通たるべく候哉、猶更其方中考之趣可承事。

一、一步刈法之儀、前々より上中下三步充九歩刈、此糶を煎候而勘定仕立候に付はか取不申、村數見分難成候。向後者上中下共に一步充刈、此糶煎候に不及、生糶之半分有米与立可遂勘定、此儀大法也。且又前々下稻之分は、百姓願次第之場所刈之候由に而、領末石原等、本作所に而も無之纒有之地面之所、下分に立之候。向後ケ様之場所等を入打渡、皆無引にして、下稻相應之所刈立可申候。是又大法也。但十村共、一步刈之法承知いたし有之事に候得共、末々百

姓共存るため具に書付可差出之候。

右之趣、其方中三人より、御郡々御扶持人・十村共等ね申談、末々百姓共ねも爲申聞、一村限爲致合點候様可相心得候。猶更難心得品は伺之可申事。

巳八月

- 別所忠兵衛
- 菊田逸角
- 中村武平次
- 山東武左衛門
- 高昌權太夫
- 大塚彌五太夫
- 賀古助進
- 稻垣傳左衛門
- 坂井知右衛門

- 田井村治郎吉方
- 津幡江村宅助方
- 村井村與三右衛門方

一一四 一步刈斗代勘定之事